

功労賞を受賞して

昭和40年卒 吉村 繁

この度全国代議員会の席上で中澤会長より啓友会功労賞をいただきました。もとより受賞に値する功労があったとは思えず心苦しいのですが、県人会のご推薦を有り難くお受けしました。お礼申し上げます。

なおこの機会に、少し感想を述べることをお許してください。

小生が学んだ習志野校舎は、おぼろげながら聞くところによると陸軍騎兵隊の建物で木造2階建てでした。啓心寮の風呂は馬を洗った所とか云々。代議員会の会場が順天堂の資産になって新しいセンチュリータワーであったことは、正に順天堂の隆盛を実感、当時を偲び感無量でした。小川理事長のあいさつにも、この物件を取得したいと思いつけた長年の夢を成し遂げた満足感と嬉しさが伝わってまいりました。理事長の思いを満場一致で共有できたのではないかと思いました。(因みにセンチュリータワーについては順天堂だより 257・258号に詳しく掲載)

北海道の代議員はスポーツ系大学の乱立による競争の激化を憂い、今年卒後研修の開催地である高知県では、家族ぐるみの忘年会が毎年恒例化しているとのこと。一方では支部(県人会)活動が立ち上げられて無い県がまだ相当ある現状に、母校愛や同窓会活動のあり方などを考えさせられます。

支部活動は、大学から見れば有為な学生の確保を頼りとし、支部はそれに応える力を持つてれば幸いなことです。同窓生にあっては母校の発展と後輩や同窓生の活躍を喜びとし、先輩は後輩を思い、後輩は先輩を慕い敬う。同じ釜の飯を食った仲間として年齢を越えた親睦の場が支部活動でもあると思うのです。そこは功利も打算もない世界です。山形県人会はそういう場なのだと感じてきました。

開祖佐藤泰然の父藤佐の生家と小生のこと

昭和36年新聞紙上に順天堂大学合格者名が載ったときのこと、今は亡き佐藤家の当主が「同じ高瀬村から順天堂に合格した者がいる」と大変喜んだとの逸話を後年跡取りの長女の方から聞くことになりました。そのとき大変有り難い気持ちになったことを思い出します。このことから順天堂ファミリーの絆の強さを感じさせられます。順天堂の良さは正にここにあると思うのです。科学技術が日進月歩する変化の激しい社会にあっても、絆の大切さは不易に違いないと思うからです。

失礼ながら誠に恐縮ですが、多様な価値観を持ち、淡白な付き合いを好み、ご事情もあり帰属することを嫌う考えもあるとは思いますが、何はともあれ年会費の納入と新しいメンバーが総会に参加いただけたら大変嬉しく思います。

終わりに、山形県人会の会長さんはじめ事務局の皆様から心から労い申し上げますと共に、会員の皆さまの益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。